長い間、苦しい開こん生活を続けました。

しかし、滑津原一帯は、昔から十分な水路がなく、水不足で悩んでいました。その上、土地が火山灰であるため、水は地下に入ってしまうことが多かったのです。　そのため、作物が実らないことが多くありました。苦労した開こんは、いずれも失敗してしまいました。入植した移住者の中には、生活が苦しいため、村をはなれる人もいました。

入江農場の開たく　会津藩の士族である入江新六郎は、石川郡小高村（現玉川村）の戸長をしていましたが、明治十五年に滑津村に入植しました。

明治十八年から、滑津原に四十ヘクタールの土地を、国から借り、開こんをし、木の苗を育てることを中心にした大きな農場をつくりました。

ひのき、杉、から松などで、防風林をつくり、場内には、樹木標本園、